

3 歴史・文化から見た谷中霊園

台東区の北西部とその周囲の区域には、江戸幕府開府以来の歴史・文化資源が豊富に存在している。谷中は、そのほぼ中央部に位置している。

谷中は、江戸開府や寛永寺の創建に伴う寺院の建立、江戸の市街地拡張に伴う神田からの多くの寺院の移転などにより寺町が形成され、発展してきた町である。震災や戦災の影響が比較的少なかったため、今も多くの寺院や路地、木造の建物などが、昔ながらの下町の面影を残している。

文学の舞台としても、森鷗外、夏目漱石をはじめとする文人の作品にこの界隈のようすが折り込まれている。中でも代表的なものが、天王寺の五重塔を題材にした幸田露伴作「五重塔」である。

谷中霊園の敷地の中央部分は、霊園の北側に接している天王寺に由来する。

天王寺はかつて感應寺と称し、江戸の三大富突⁽¹⁴⁾のひとつとして有名であり、徳川家の菩提寺であり荘厳な寛永寺に比べ、江戸庶民に親しまれた寺であった。「江戸名所図会⁽¹⁵⁾」を見ると、霊園中央の園路である通称「桜通り」は、かつては寺の参道であったことがわかる。

五重塔は、明治41年(1908)に東京市に寄付され、昭和32年(1957)に焼失するまで霊園内に実在していた。現在はその礎石が都の史跡に指定されている。園内には他にも、江戸時代からの旧道がほぼそのままの形で残っている園路や、藩主、政治家、文人などの著名人墓所等、多くの歴史資源がある。

近年、都市の歴史を学んだり、地域の暮らしに触れ、文化を探求するなどのタイプの観光が広がっており、多くの文人たちゆかりの場所や、個性的な商店・ギャラリー、昔ながらの伝統工芸の店、博物館などが集積し、歴史ある建築物やそのまちなみとあいまって独特の雰囲気を出している谷中へは、これらを巡りながらまちを散策する、「まちあるき」に訪れる人が多い。

谷中霊園にも、ガイドブックを片手に著名人の墓所を訪ねたり、霊園の緑の中を散策する人が多く訪れている。



天王寺



谷中に残る歴史資源
(観音寺築地塀 国登録有形文化財)

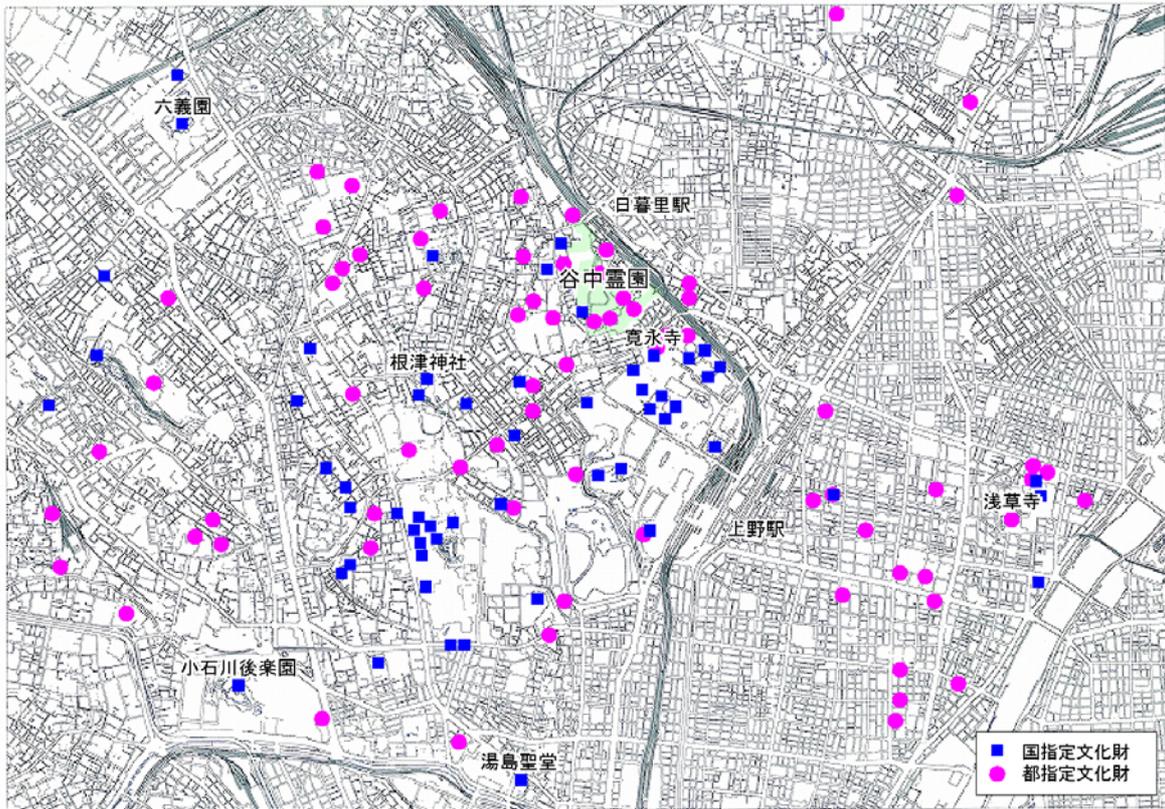


図 - 8 台東区北西部とその周辺における文化財の分布

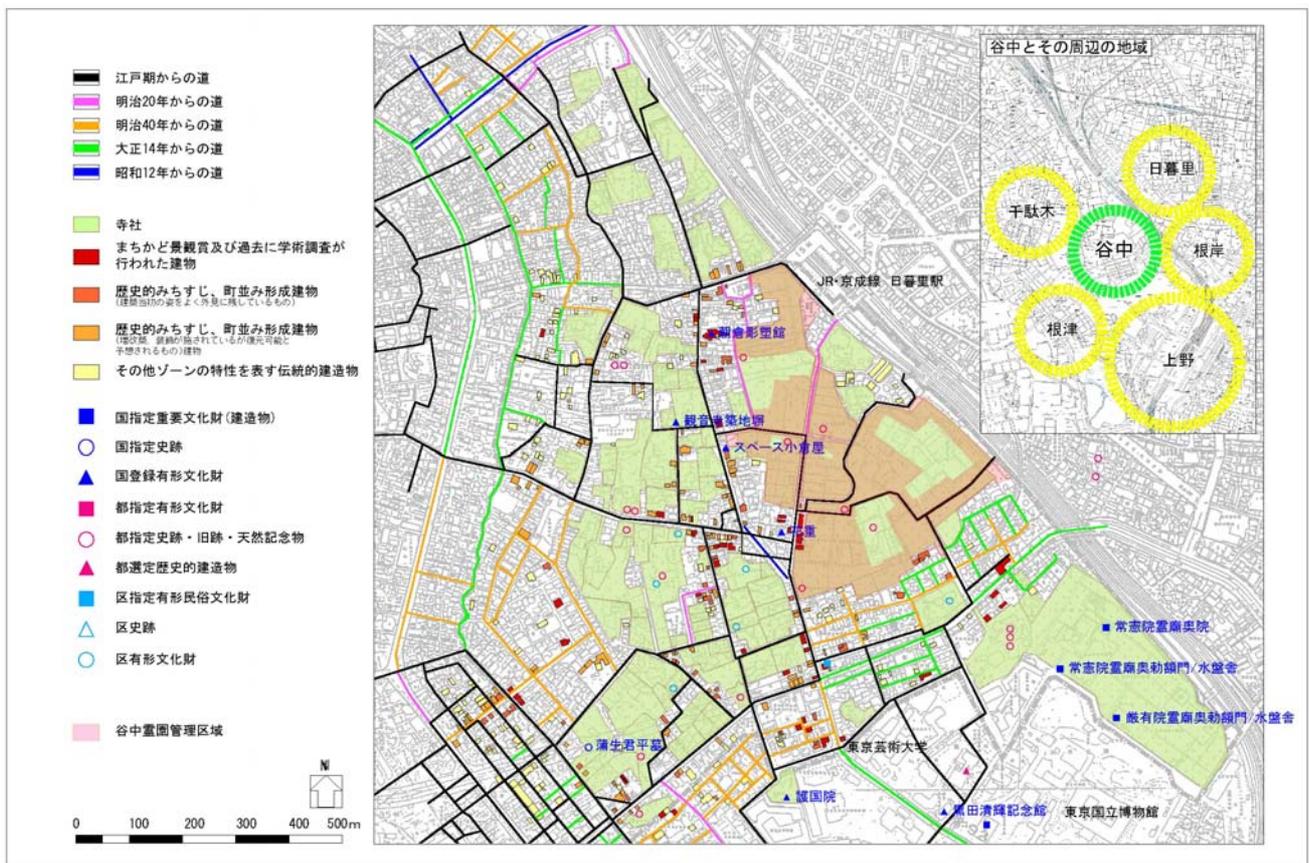


図 - 9 谷中霊園周辺における寺社・文化財・古くからの道・伝統的建造物の分布

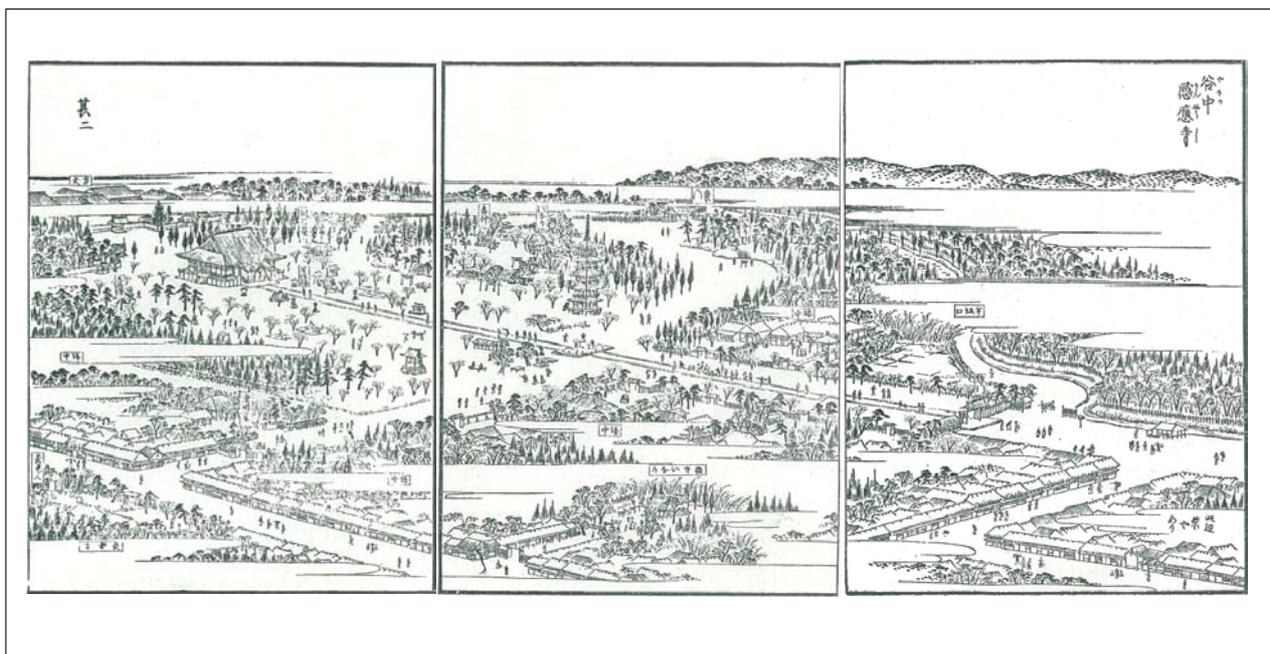


図 - 10 江戸名所図会「谷中感應寺」



天王寺五重塔跡（都指定史跡）



桜通り

表 - 4 谷中霊園内の文化財

名 称	区 分
小花作助墓	東京都指定・史跡
天王寺五重塔跡	東京都指定・史跡
菊池容斎墓	東京都指定・旧跡
大原重徳墓	東京都指定・旧跡

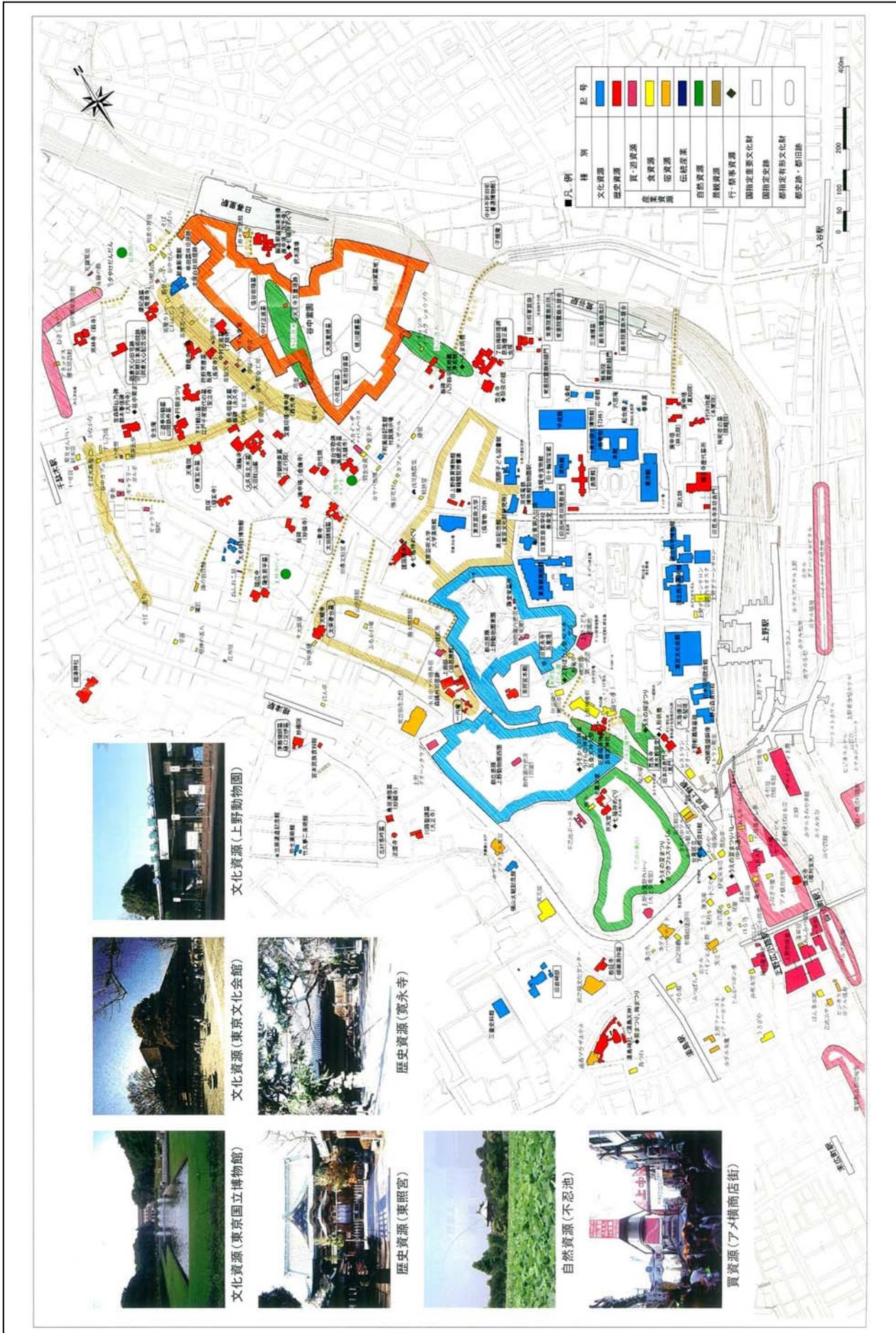


図 - 1 1 谷中地区、上野地区の観光資源

4 谷中のまちづくりの状況

谷中は、震災や戦災から免れた場所が多く、伝統的な町並みと寺社や斜面の緑、地域コミュニティや工芸・芸術文化等が引き継がれている地域である。しかし、近年、建替えや土地開発と従来の住環境との調和、緑地等の減少、歴史的建物の喪失、防災性の向上、観光ニーズの増大による日常生活への影響、通過交通などの交通問題などが課題となっている。

一方、地域では、従来から町会、各地域団体の活動が盛んであり、平成12年には住民みずから「まちづくり憲章」を制定し、「谷中地区まちづくり協議会⁽¹⁶⁾」が設立され、住民主体のまちづくりの土壌が育まれつつある。

台東区では、この地域のまちづくりについては、「『谷中暮らし』を大切にし、安全・安心して暮らせるまちづくり～江戸東京の歴史文化と自然、人とつながり暮らす町」をテーマとして進めるとしている。



谷中に残る伝統的な木造建築

(旧吉田屋酒店 台東区指定有形民俗文化財)



斜面地の緑(谷中5丁目地内)

< 谷中・上野桜木地区まちづくり憲章 >

この町は、緑豊かで、荘厳な寺院や風情のある木造家屋の続く地域です。静かで、空が高い、素晴らしい環境と景観が保たれています。江戸の昔からの参詣の場として、また散策地として、多くの人々が訪れて来た所でもあります。今も、活気のある商店街があり、様々な文化施設も存在します。景観や環境ばかりでなく、代々受け継がれてきた地域社会や生活の流儀が生き続けており、新しい文化を育むところでもあるのです。

この町を守り育て、住み続けていくことが住民全体の願いです。私たちはこれからもこの町を大切に想い、自分たちの手でまちづくりを進めていくことをめざし、ここに「谷中・上野桜木まちづくり憲章」を宣言します。

- 一、自決権 住民自身が町の現在と未来を考え決めていくことにしましょう。
- 一、地域社会 お互いを気遣い、ふれあいのある地域社会を築きましょう。
- 一、環境・自然 私達の生活する町の環境と自然を守りましょう。
- 一、町並み 歴史と文化のある町にふさわしい町並みをつくりましょう。
- 一、安全 子どもからお年寄りまで安心して暮らせる町にしましょう。
- 一、土地 土地は投機の対象とせず、生活のための基盤としましょう。

平成12年3月27日制定 谷中地区町会連合会・谷中コミュニティ委員会・下谷仏教会・谷中地区商店会

図 - 12 谷中・上野桜木地区まちづくり憲章

谷中地区の特徴と課題

谷中地区の価値：活かすべき特徴

1. 江戸東京の町並みと文化の重層
 - ・江戸東京を積み重ねる町並み、江戸を基盤とした道筋、町割首都東京の歴史・生活文化を国際的に象徴するゾーン
2. 都市の中での自然との共生
 - ・上野台地の水と緑の骨格、自然地形、生態系の多様性、地先園芸など環境共生型暮らし
3. 寺町、下町の暮らしを引継ぐ住環境
 - ・路地の生活文化コミュニティ、多様なふれあいの核
4. 寺町の文化と景観
 - ・美しい屋並み、伝統行事や慣習に生きる文化性
5. 手づくり文化・芸術の町
 - ・手づくり、手仕事、工芸、芸術文化産業の豊かさ

台東区の諸計画からみた付加すべき価値

- ・台東区まちづくり整備指針：自然や歴史的文化的資源を保全・活用し、古くからの住宅地としてのたまたまの良さを残して住環境の保全・整備する地区
- ・伝統的な町並みを残しながら、災害に強い地区
- ・いまある谷中の姿（昔から変わらずに引き継がれてきた景観）を大切にし、なるべく変えることなく、整備を進めていくことが重要
- ・寺社境内地の緑、生垣、庭先の緑等を保全・活用し、歴史・文化を体感できるまちをつくっていく。
- ・住民の落ち着いた生活を損なうことのないよう配慮しつつ、ふれあい生活文化観光エリアとして整備されることが望ましい。
- ・公共交通手段により台東区内を円滑に移動でき、また他地域から多くの人々が訪れ谷中地区全体が活性化されることが望ましい。



谷中地区の現況の課題

- ・歴史文化資産の減少
- ・東京に残された自然の減少
- ・景観保全
- ・歩いて暮らせる町の変化
- ・防災性の向上
- ・観光ニーズの増大による生活の場の変化
- ・都市構造あり方検討の必要性

谷中地区まちづくりの整備目標

「谷中暮らし」を大切にし、安全・安心して暮らせるまちづくり～
江戸東京の歴史文化と自然、人とつながり暮らす町

1. 歴史的文化的ストックを活かすまちづくり

- ・地区内における歴史的文化的資産の掘り起こしと保全活用、保全整備

2. 自然の保全と創造のまちづくり

- ・斜面緑地の保全
- ・歴史文化、生物の多様性、防災に配慮した自然環境の保全創造
- ・住民による緑地保全支援

3. 町の魅力を再生産するまちづくり

- ・谷中の多様な魅力と将来イメージの明確化
- ・谷中の魅力ある景観保全・形成や産業への支援体制

4. 安心して歩けるまちづくり

- ・地区内街路における歩行者の安全に配慮した優しく快適なまちづくり
- ・谷中らしさを大切にしたいまちづくりの実現
- ・路地文化の継承

5. 防災と歴史的環境が両立したまちづくり

- ・谷中の特性を生かした防災まちづくりの実現
- ・防災拠点、避難ルート等の確保
- ・防火・防災意識の向上と緊急時の体制づくり

6. 出違いのあるまちづくり

- ・周辺地区との連携
- ・増加する観光ニーズと生活の場の共存
- ・文学的記憶と芸術文化を巡る散策ルート整備
- ・歴史文化の再発見と芸術文化活動支援

7. 町の構造とコミュニティを受け継ぐまちづくり

- ・まちづくりの立場からの柔軟な街路計画の検討
- ・都の都市計画道路検討の反映

図 - 1 3 台東区における谷中のまちづくりの考え方